

## 2018年度 西域総合研究班 研究プロジェクト申請書

研究代表者	氏名	三谷 真澄	所属 国際学部
			職名 教授
研究課題	日本語	大谷探検隊将来資料および西域出土資料に関する総合的研究	
	英語	General Survey of Materials brought back by the Otani Mission and excavated in Central Asia	

**研究目的**／①長期的研究目標と、②短期的研究目標（申請研究期間）について、具体的に記入してください。特に②については、研究期間内に何をどこまで明らかにする予定なのかを1年目、2年目等と順次明記してください。

① 長期的研究目標

本研究は大谷探検隊が中央アジアで収集した資料の全容を明らかにすることを目的とする。半世紀の歴史を有する本研究会がかつて出版した『西域文化研究』全6巻はわが国における西域研究の基盤を作り上げたばかりか、国際的にも評価の高い、まさに西域学の一大金字塔であった。しかし、近年の内外における西域学の進展は目を見張るものがあり、『西域文化研究』はそろそろ過去のものとなりつつある。そこで本研究会は長期計画（2011年度～2021年度）の到達目標として、近年の研究成果を盛り込んだ新たな『西域文化研究』の刊行を掲げる。その目標を実現するために、以下の4つの研究グループを編成し準備にあたる。また、第二期「アジア仏教文化研究センター」の研究計画、及び、龍谷大学研究ブランディング事業「古典籍デジタルアーカイブ研究センター」とも密接な関連性を維持しながら、研究成果を国内外に発信するために適切な体制を整える。

1 大谷探検隊将来文字資料の調査研究（代表：三谷真澄）

本研究会の伝統である中央アジア出土写本研究を行い、「トルファン写本」「敦煌写本」の解読研究を主になす。2002年度より2011年度にわたり、旅順博物館との共同研究を行い、同館所蔵の大谷探検隊収集の文献資料（漢字・非漢字）の同定研究を遂行した。2015年度以降、同時代に同地域を探索したドイツ隊の所蔵資料との対照研究や、国内の杏雨書屋所蔵の敦煌写本の読解研究を精力的に行った。長年にわたるドイツ・トルファン研究所との共同作業の集大成として、漢文写本目録 Chinese Buddhist Texts from the Berlin Turfan Collections Volume 4 (Chinesische und Manjurische Handschriften und seltene Druck)を刊行する予定である。また大谷探検隊収集のウイグル語資料の目録化もトルファン研究所の協力を得て継続する。また、国内のトルファン写本や、IDPの国際的ネットワークを活用した比較対照研究を通して、大谷コレクションの資料的意義を再確認する。

2 西域仏教美術の調査研究（代表：宮治昭）

大谷探検隊が収集した美術資料の研究を主としつつ、西域仏教美術の総合的研究を目指す。西域仏教美術はガンダーラ仏教美術の影響を強く受けており、両者の比較検討が急務となる。近年、トカラ語仏教圏の壁画研究が進展しつつあり、本研究グループもそれを十分にふまえたうえで、クチャ地域の石窟、コータン地域の仏教寺院遺跡などを調査する。

3 モンゴルの仏教寺院址の調査研究（代表：村岡倫）

第二次大谷探検隊の行ったモンゴル調査の検証をなす。第二次大谷探検隊によるモンゴル調査はモンゴル研究の先駆をなしながら、これまで十分に検証がなされてこなかった。近年、大谷大学のチーム（代表：松川節）が現地調査を敢行し、研究の先鞭をつけた。大谷大学とも連携をとりながら、エルデニゾー寺院の調査を検証していく。

4 西域仏教遺跡と大谷探検隊の調査研究（代表：入澤崇）

大谷探検隊が目指した仏教の広がりを探求する精神を継承し、西域仏教遺跡の総合的研究をなす。従来の研究成果をふまえ、大谷探検隊の総合的な評価の確立に向けて資料収集とその分析にあたる。とくに隊員が残した日記類を検証し、大谷探検隊の調査動向を探っていく。これまで十分に顧みられなかったインドの仏教遺跡調査についても検証していく。

長期計画に掲げられる新たな『西域文化研究』刊行に向けて、上記4班の最新の成果を西域文化叢書として発行する。

## ②短期的研究目標

### ・1年目

漢文写本目録 Chinese Buddhist Texts from the Berlin Turfan Collections Volume 4 (Chinesische und Manjurische Handschriften und seltene Druck)の刊行

### ・2年目

長期研究計画に基づく西域文化叢書7の発行

### ・3年目

長期研究計画に基づく西域文化叢書8の発行

**研究計画・方法**／2018年度の研究目的を達成する計画・方法（シンポジウム・講演会・ワークショップ・セミナー・研究会・調査出張等）を総論と各論に分けて、具体的に記入してください。

#### 〔総論〕

本研究センターへの移行初年度にあたり、4つの研究グループの連携を強化しつつ、それぞれの研究成果を相互に利活用できるよう、また研究が相互に補完できるような組織作りをおこなう。

2018年度は、大谷探検隊を派遣した大谷光瑞師の遷化70年にあたる。命日である10月5日を中心として国際シンポジウムを開催し、研究成果を公開するとともに、その歴史的意義を問う。本シンポジウムは、アジア仏教文化研究センター、古典籍デジタルアーカイブ研究センターとの共催としておこなう。

また、定期的な研究会を開催するほか、講演会、調査出張等については、随時、海外からの研究者の来訪や長期休暇中に行うこととする。

#### 〔各論〕

### 1 大谷探検隊将来文字資料の調査研究（代表：三谷真澄）

大谷探検隊のみならず、ドイツ隊収集資料などの文献資料を統合した総合目録の構築をめざす。並行して、毎週（原則として木曜15:00より）、大谷探検隊将来資料に関連する敦煌・トルファン出土写本の輪読会を開催し、その研究成果を逐次報告する態勢を整える。

### 2 西域仏教美術の調査研究（代表：宮治昭）

2017年度までの科研費による研究課題「中央アジア仏教美術の研究—釈迦・弥勒・阿弥陀信仰の美術の生成を中心に」をさらに継続し、特に、クチャ地域の石窟、コータン地域の仏教寺院遺跡などを調査する。

### 3 モンゴルの仏教寺院址の調査研究（代表：村岡倫）

2017年度に引き続き、第二次大谷探検隊が行ったモンゴル調査の検証をなす。現地調査を敢行し、研究の先鞭をつけた大谷大学のチーム（代表：松川節）とも連携をとりながら、2018年度もエルデニゾー寺院の調査を検証していく。

### 4 西域仏教遺跡と大谷探検隊の調査研究（代表：入澤崇）

大谷探検隊が目指した仏教の広がりを探求する精神を継承し、西域仏教遺跡の総合的研究をなす。2018年度も引き続き大谷探検隊の総合的な評価の確立に向けて資料収集とその分析にあたる。